

東亜天文学会 2017 福島年会の報告

2017 年会実行委員長 大野裕明 H. Ohno
(福島県 福島市)

2017 年 10 月 28 日～29 日、特定非営利活動法人東亜天文学会 2017 年の年会在福島県福島市奥飯坂の摺上亭大鳥で開催されました。今回の福島年会は地元の福島天文同好会創立 50 周年記念式典に合わせ共同主催として行われましたのでその概要を報告いたします。

第 1 日目 10 月 28 日(土) 福島天文同好会の記念式典

式典では、福島天文同好会の佐原小百合さんの司会のもと、佐藤正行企画事業部長の開会の挨拶に続き、佐藤光会長の挨拶、小林香福島市長の来賓祝辞(代読:西坂邦仁商工観光部次長)、大野裕明名誉会長による記念講演会講師紹介、表彰式が行われ大野名誉会長、佐藤会長、遠藤晴男氏(欠席)、遠藤せつ子氏にそれぞれ感謝状が贈呈されました。その後大野名誉会長による記念品の授与と続き、山形県南陽市の大國富丸氏(代理大野名誉会長)から小惑星「福天」(同好会の略称)の命名証が佐藤会長に渡されました。続いて高知市の関勉 OAA 顧問から福島市長(代理:西坂商工観光部次長)へ小惑星



佐藤 光
福島天文同好会会長



大野裕明
福島年会実行委員長

「信夫山」(福島の由来ともいわれる福島盆地の中央にある福島市民のシンボリックな山)の命名証が渡され、福島市長(代読:西坂次長)から謝辞がありました。



左から西坂邦仁氏、関勉氏、佐藤光氏、大野裕明氏

NPO 法人東亜天文学会 2017 福島年会

1. 開会

福島年会は 10 月 28 日午後 1 時 30 分から福島天文同好会の式典に続き佐原小百合さんの司会のもと、大野裕明福島年会実行委員長の歓迎の辞、山田義弘理事長の挨拶と続きました。



山田義弘理事長

2. 各賞の表彰

出席された次の方々へ各賞が授与されました(敬称略)。

①東亜天文学会賞

平林 勇

あなたは半世紀以上に渡って木星観測を継続し、卓越した観測技術を発揮する中で、木土星課長を18年に渡って務めるとともに月惑星研究会の創設、木星面解説書の著作などを通じて優れた観測者を多数育成し、惑星天文学の発展に貢献されました。よって東亜天文学会賞を贈りこれを賞します。



平林 勇

②山本一清学術研究奨励賞

望月悦育

あなたは、1960年に太陽黒点観測を始められ、今日までの58年間にわたる東亜天文学会太陽課への観測報告を続けられています。今後続く多くの太陽黒点観測者に多大の励ましを与えられました。更に、観測報告はベルギー王立天文台の黒点・太陽長期観測世界データセンター(WDC-SILSO)にも掲載されており、またドイツのSONNE、アメリカのAAVSOへの報告もされ、国際的にも活躍されています。今後益々の貢献を期待し、山本一清記念学術研究奨励賞を贈り表彰いたします。



望月悦育

③天体発見賞

板垣公一

超新星 SN 2016 eqa、SN 2016 esm、SN 2016 fov、SN 2016 gsd、SN 2016 jag、SN 2016 hr、SN 2017 cjb、新星 V5855 Sgr

④天体発見賞

坪井正紀

超新星 SN 2016 jfu

⑤天体発見賞

西村栄男

新星 V1655 Sco、V1657 Sco

⑥天体発見賞

藤川繁久

新星 V1656 Sco

授賞後受賞者各人より謝辞がありました。



受賞者左から藤川繁久、西村栄男、坪井正紀、山田理事長、板垣公一、望月悦育、平林勇の各氏

3. 記念写真撮影

事務連絡の後、記念撮影をしました(本誌の表紙をご覧ください)。

4. 記念講演会

一般の聴講者を交えて OAA 顧問であるコメントハンター関勉氏による「天体観測50年の軌跡」と題する記念講演会を行いました。

前半は関氏が撮影した画像などを見ながらイケヤ・セキ彗星などの思い出の彗星について当時の様子を語



関顧問

られ、後半は演題である観測50年間を振り返って若い日の心のうちなどについても熱く話されました。著書にも書いていないことなどにも触れ、聴衆の多くが興味深く聞いていたようで、時間の経つのが早く感じられました。

5. 展示物(記念メダル)の紹介

関氏が展示した珍しい太平洋天文学会のコメントメダルなど受賞記念メダルについての説明



メダルの説明をする関顧問

がありました。

6. 研究発表(1日目)

①「2016-17 シーズンにおける mid-SEB outbreak の活動」 堀川邦昭

木星の南温帯縞(SEB)で起こる激しい白雲活動が2016年12月に8年半ぶりに発生し、2017年にわたって活動した様子を動画やグラフを交えた発表がありました。



堀川邦昭

7. 懇親会

研究発表(1日目)が終わり、事務連絡の後会場の「鳳凰の間」に昼が引かれ宴会場になりました。18時30分から大野実行委員長の司会、板垣公一氏の乾杯の音頭で福島天文同好会との合同懇親会が行われました。久しぶりに会う方や初対面の方たちも和気あいの情報交換の場となりました。ブラック星博士こと明石市立天文科学館長の井上毅氏も駆けつけ、挨拶の中で次回開催地が明石になることを案内されました。会の終盤、地元の果物「りんご」



懇親会風景

や板垣氏の差し入れた豆菓子などの賞品が当たるお楽しみ抽選会があり大いに盛り上がりました。懇親会終了後部屋を変えて二次会が行われ、持ち寄った銘酒などを心行くまで味

わいました。

第2日目 10月29日(日)

8. 研究発表(2日目)

大野年会実行委員長の司会進行で進められました。台風22号の影響で順番を一部変更しました。

②「2017年アメリカ皆既日食報告」

大野裕明

今年8月21日に起きたアメリカ横断皆既日食をオレゴン州カニータ・リゾートで観測したので詳細を報告しました。



大野裕明

③「今世紀に太陽をかすめる大彗星の再来はあるか」

佐藤裕久

今から900年以上前に一つの巨大彗星が二つに分裂し細かくなったものが太陽めがけてやってくる Kreutz 群の変遷と搜索方法について発表されました。



佐藤裕久

④「土星の第9衛星 Phoebe による恒星食の観測結果」

細井克昌

2017年7月7日(JST)深夜に起きた土星の第9衛星 Phoebe (フェーベ)による恒星食が日本国内2カ所での観測成功し、土星探査機カッシーニにより得られた値を追認することができたことや、観測方法や解析結果について触れ、過去の衛星によ



細井克昌

る観測事例も紹介されました。

⑤「近世日本の火球の連続観察図の発見」

渡邊美和

甲府市在住の信清由美子氏により再発見された土浦城下の色川美年による江戸時代(弘化2年11月6日;1845年12月4日)の大流星の痕の時系列(現代の流星痕の連続写真のように時間の経過によりその形が変化している様子が残されている)スケッチを紹介されました。



渡邊美和

9. 展示物の紹介

山根秋郷、酒井 栄、阿部靖彦、佐藤裕久の各氏から展示したポスター、写真、書籍などの説明がありました。



展示物

10. 次回開催地案内

佐藤裕久理事・彗星課長から昨夜の懇親会で井上毅氏が挨拶で触れたとおり、次回は明石市で開催されることを案内しました。

11. 閉会・謝辞

今回の福島年会は福島天文同好会との共同主催により成功裏に終了することができました。福島天文同好会の実行委員の皆さんをはじめ、協力された福島県天文協会の皆さん、参加された皆さんに感謝申し上げます。